

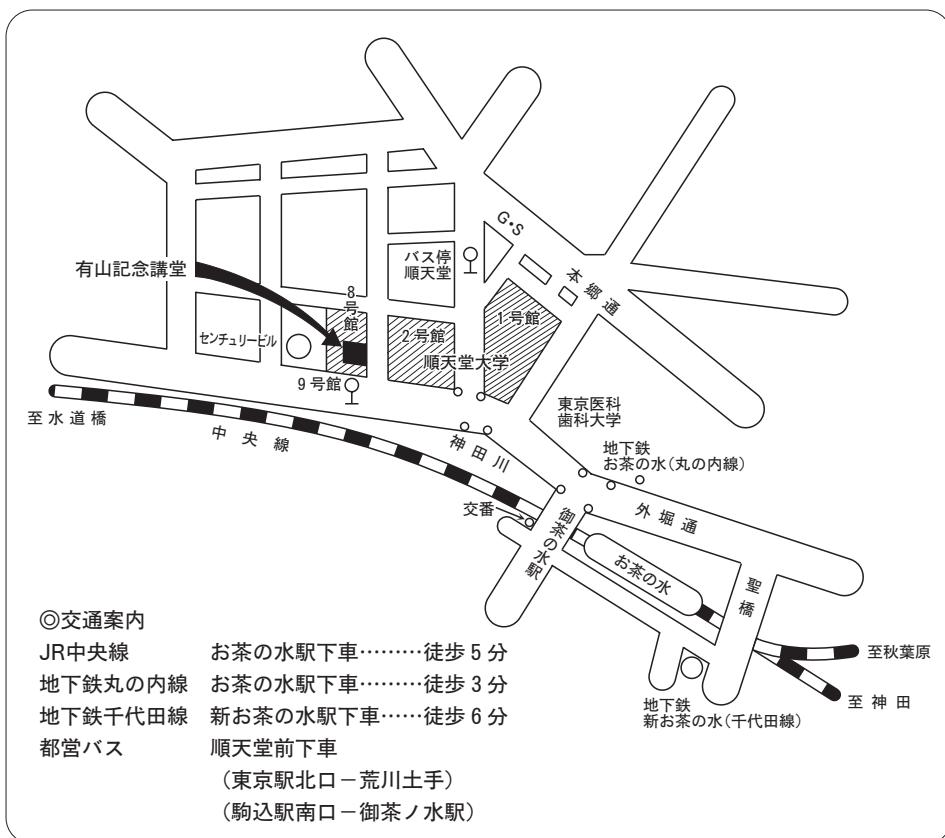
# 第 534 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会

### プロ グ ラ ム

日 時 平成17年12月17日(土)午後2時00分

場 所 順 天 堂 大 学 有 山 記 念 講 堂



#### 演題の申し込みについて

- 講話会の当日、文書で提出してください。
- 抄録(160字内外)をおつけください。
- 原則として指定発言者をご記入ください。
- 演者、指定発言者は、当日抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

#### 世話人

プログラム係 勝沼 俊雄  
東京慈恵会医科大学小児科 03(3433)1111  
FAX 03(3435)8665  
会場係 大塚 宜一  
順天堂大学小児科 03(3813)3111  
事務局 03(5388)7007  
事務局電子メール shounihifuka@joy.ocn.ne.jp

# 第 534 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分, 指定発言 5分, 追加討論 2分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:25

座長 細野 茂春（日本大学付属板橋病院小児科）

1) 開胸術後の乳び胸に対しソマトスタチンーアナログ（オクトレオチド）が著効した 1 例

○吉川 尚美, 千葉 幸英, 藤井 徹, 李 翼,  
久田 研, 篠原 公一, 清水 俊明, 山城雄一郎（順天堂大学小児科）

症例は 26 週 5 日 : 611 g にて出生, 動脈管開存症に対し日齢 7 に結紮術を施行。術後より乳び胸（約 100 ml/日）を発症したため, 胸腔ドレナージ及び MCT ミルクを開始した。その後も改善傾向を認めなかっただため, 日齢 23 よりオクトレオチドの投与を開始したところ, 日齢 27 に胸水の消失を確認した。難治性乳び胸を来た超低出生体重児におけるオクトレオチドの有用性について文献的考察を加え報告する。

2) 由来不明のマーカー染色体モザイクを認め, CGH アレイ法により 3q 重複と診断された 5 歳女児例

○荒巻 道彦, 小崎健次郎, 高橋 孝雄（慶應義塾大学小児科）  
山下 行雄（川崎市立川崎病院小児科）

特徴的な顔貌, 心房中隔欠損, 腹直筋離開を認め, 生後 1 カ月時の染色体検査 (G-banding 法) でマーカー染色体を指摘されたが診断に到らず。5 歳時, CGH アレイ法によりマーカー染色体の由来を特定し 3q 重複と診断した。由来不明のマーカー染色体を認めた場合には, CGH アレイ法によりその由来を特定できる場合がある。

3) 胎児性アルコール症候群の 1 例

○松浦 玲, 水谷 佳世, 水野 克己, 竹内 敏雄, 板橋家頭夫（昭和大学小児科）

胎児性アルコール症候群 (FAS) と考えられる症例を経験した。在胎 35 週に胎児発育遅延と羊水過少のために入院するまで, 母親は 1 日 1.5 ℥ 以上のビール（純アルコール 75 g）を連日摂取していた。前児を妊娠中にても同様に飲酒しており低出生体重児で先天性心疾患を合併していた。在胎 36 週 3 日, 出生体重 1,435 g であった。FAS に特徴的な薄い上口唇が認められた。文献的考察を加えて報告する。

第 2 グループ 14:25—15:00

座長 伊藤 保彦（日本医科大学小児科）

4) 尿所見に乏しく診断に苦慮した急性巣状細菌性腎炎の 1 例

○小暮 裕之, 太田 秀紀, 有瀧健太郎, 高山ジョン一郎（国立成育医療センター総合診療部）

尿道狭窄を伴う急性巣状細菌性腎炎と診断した 7 歳男児の症例を経験した。これまでに少量の尿失禁と抗生素が有効な発熱を繰り返していた。入院時白血球尿を認めず, 背部叩打痛も明らかでなく診断に時間を要した。急性巣状細菌性腎炎は尿所見に乏しい事が多く, 詳細な病歴聴取および理学所見が診断の助けになる。

5) 両側横隔膜弛緩症による呼吸不全の治療経過中に発症した血球貪食症候群の1例

○岩永 祥子, 橋都 浩平, 金森 豊, 杉山 正彦,  
朝長 哲弥, 古村 真, 鈴木 完(東京大学小児外科)  
井田 孔明, 康 勝好, 滝田 順子, 五十嵐 隆(同 小児科)

[ 症例は12歳、男児。両側横隔膜弛緩症術後で、呼吸不全を繰り返していた。今回、入院加療中に突然の発熱・皮疹と汎血球減少を呈し、血球貪食症候群が疑われた。高フェリチン血症、高LDH血症と、骨髄でのマクロファージの血球貪食像の増加から診断が確定した。ガンマグロブリン・ステロイド投与にて症状は軽快した。本症例では血球貪食症候群の原因は不明であった。 ]

6) 多発性頭蓋内出血にて発症し1年の経過を経てSLEと診断された1例

○久津間弘和, 小林 茂俊, 斎田 敏之,  
仲本なつ恵, 服部 拓哉, 柳川 幸重(帝京大学小児科)  
久津間弘和(博慈会記念総合病院小児科)  
大場 洋(帝京大学放射線科)

[ 14歳女児。頭蓋内多発出血で発症し血小板減少、PAIgG陽性、骨髄所見からITPとして加療されていた。1年の経過を経て、汎血球減少、低補体血症、抗核抗体、抗DNA抗体など各種自己抗体が出現しSLEと診断された。ITP発症後に膠原病に移行する症例報告は散見されており、文献的考察を加えて報告する。 ]

7) 全前脳胞症に潰瘍性大腸炎を合併した1例

○富永 光敏, 鈴木 鑑, 赤司 賢一,  
櫻井 謙, 小林 博司, 衛藤 義勝(東京慈恵会医科大学小児科)  
有賀 賢典, 落合 幸勝(東京都立北療育医療センター)  
根岸 道子(東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科)

[ 全前脳胞症(HPS)の15歳女児。8歳頃より間歇的に血便を認め入院を繰り返していた。今回、下血精査のため大腸内視鏡を施行し、内視鏡所見、病理所見、臨床的に潰瘍性大腸炎(UC)と診断した。現在、栄養療法、mesalazine 1500mg/日にて経過観察中である。HPSにUCを合併した前例はなく、ここに報告する。 ]

休 憇 15:00—15:10

感染症だより 15:10—15:20

座長 山本 光興(山本小児科)

岡部 信彦(国立感染症研究所感染症情報センター)

第3グループ 15:20—15:45

座長 畠井 芳穂(柳原記念病院循環器小児科)

8) 両方向性グレン手術の1カ月後に胆石症による閉塞性黄疸を発症した1例

○林 泰佑, 小野 博, 杉村 洋子,  
渋谷 和彦, 賀藤 均, 五十嵐 隆(東京大学附属病院小児科)  
杉山 正彦(同 小児外科)

[ 症例は、純型肺動脈弁閉鎖症の1歳男児。生後11カ月時に両方向性グレン手術を施行した1カ月後頃から、哺乳力の低下と嘔吐がみられるようになり、機嫌も悪くなった。黄疸と白色便、直接型ビリルビンの上昇を認めたため入院となった。腹部超音波検査にて径3—4mm大の胆石を多数認めた。絶食による保存的治療で黄疸は改善したが、胆嚢摘出術を施行した。文献的考察を含めて報告する。 ]

9) 食道誘導心電図により確定診断し得た不整脈の4症例

○白井健太郎, 脇本 博子, 佐々木章子, 土井庄三郎, 水谷 修紀

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科発達病態小児科学)

泉田 直己(曙町クリニック)

食道誘導心電図は左房に接する食道内電極を用い、簡便に明瞭な心房電位を描出することにより、体表面心電図のみでは困難な不整脈の鑑別診断に大変有用である。食道誘導により確定診断し得た生後1カ月から9歳の不整脈の4症例(異所性心房頻拍、変行伝導を伴う上室性頻拍、ブロックを伴う心房期外収縮、房室ブロック)を経験したので報告する。

10) 急性左心不全に伴う肺出血で入院となった僧帽弁腱索断裂の1症例

○安藤 達也, 藤原 優子, 寺野 和宏, 河内 貞貴, 衛藤 義勝(東京慈恵会医科大学小児科)

症例は4カ月女児で入院前日より発熱を認めた。翌日呼吸障害があり近医受診。心雜音を認め僧帽弁閉鎖不全を指摘され当院紹介。人工換気を開始したところ気管内吸引物は血性で、レントゲン上のfocalな陰影は肺出血と考えられた。僧帽弁腱索断裂は稀な病態だが報告は散見される。発症は急激で診断時に心原性ショックであることも稀ではない。

教育講演 15:45—16:15

座長 宮島 祐(東京医科大学小児科)

アスペルガー障害の独自性 —診断、病変、臨床、司法の観点から—

古荘 純一(青山学院大学文学部教育学科)

H. Aspergerが報告した論文「小児期の自閉性精神病質」は、L. Kannerの論文と共に発達障害という概念をもたらした。広汎性発達障害の中心症状は、基本的対人関係の障害で、先天的な外界の把握様式の障害である。興味・行動の非対人性もこの点から観ると理解しやすい。生物学的研究では、扁桃体に関する研究報告が増えており、強迫・多動・愛着行動との関連が示唆される。アスペルガー障害児の司法事例は、本人の対処能力を超えた対人関係・「非」社会的行動の結果としての非行が多いが、検証事例が極端に少なく、broad spectrumの可能性が高い家族への責任転嫁が危惧される。小児科医は、アスペルガー障害児に早期に気づくだけでなく、そのわからなさを理解し支援することが必要と思われる。

第4グループ 16:15—16:55

座長 洲鎌 盛一(国立成育医療センター総合診療部)

11) 伝染性单核球症に罹患し経過中呼吸困難を来たした3症例の検討

○石川 央朗, 似鳥 嘉一, 金丸 浩, 橋本 光司,

渕上 達夫, 稲毛 康司, 高橋 滋(日大練馬光が丘病院小児総合診療科)

伝染性单核球症は発熱、扁桃炎、頸部リンパ節腫脹、咽頭痛、脾腫、肝腫大をきたす代表的ウイルス感染症である。今回我々は頸部リンパ節腫脹を伴い呼吸困難を認め早期のステロイド投与で症状が改善した症例を経験した。当院における伝染性单核球症患児の初診時の状況、合併症について文献的考察を含め報告する。

12) BCG接種後、発熱と腋窩リンパ節腫大を呈した乳児の1例

○柿元 真知, 田中絵里子, 下田 益弘, 日下 隼人(武藏野赤十字病院小児科)

6カ月男児。BCG接種後2週間後より左腋窩リンパ節が腫大し40日後に発熱、接種部再発赤、リンパ節増大を認め、PAPM/BP静注を行い改善した。MRIで内部壊死を伴うリンパ節腫大を認めたが、穿刺培養では細菌、抗酸菌とも陰性であった。BCG後リンパ節炎に全身症状を伴うことは少なく、免疫学的検索結果を含め報告する。

- 13) 下咽頭異物となり急速に上気道閉塞が進行したリチウム電池誤嚥の1例
- 柳原 知子, 山之上 純, 森田 清子, 絹巻 晃子,  
小高 学, 和氣 彰子, 柳原 裕史, 松岡 典子,  
小鍛治雅之, 寺川 敏郎, 遠藤 泰弘, 横路征太郎 (東京都立府中病院小児科)  
阿部 和也 ( 同 耳鼻咽喉科 )  
肥川 義雄 ( 同 麻酔科 )

症例は8カ月の男児。ボタン型リチウム電池誤嚥後急速に上気道閉塞症状が進行し、全身麻酔下で緊急に摘出術施行。電池は下咽頭に存在し、披裂喉頭蓋膜を中心とした喉頭に高度の腫脹を認めた。長期間の気管内挿管を要し、拔管後も声帯不全麻痺が残存。ボタン型電池誤嚥は電池の種類、存在部位によっては重篤な合併症を引き起こす可能性があり啓蒙が必要と思われる。

指定発言 山中 龍宏 (緑園こどもクリニック)

- 14) 過去16年間に当科で経験した急性脾炎の臨床的検討

- 丹羽 尚子, 辻 直香, 矢作 厚子, 溝口由美子,  
鈴木 恵子, 本間 哲, 加藤 文代, 杉原 茂孝 (東京女子医科大学第二病院小児科)  
世川 修 (東京女子医科大学病院第二外科)

当科にて1989年から2004年までの16年間に急性脾炎と診断された15例（男児6例、女児9例）の臨床像について検討した。病因としては脾胆道疾患、ウイルス感染、薬剤性、特発性が挙げられた。5例に再発を認め、そのうち3例が先天性脾胆道疾患有した。2例に合併症を認めた。

## 運営委員会だより

- 10月の講話会参加者259名、新入会8名（会員数1,761名）、ベビーシッタールーム利用者5名。
- 運営委員会では、地方会講話会を活発な意見交換の出来る場にしようと考えております。つきましては、発表される演題に関し、診断や治療で苦慮された点を一枚のスライドにまとめて合わせてご発表頂くよう、ご協力お願い申し上げます。また、指定発言をなるべく取り入れるよう、お願い申し上げます。
- 東京都地方会のスケジュールが順天堂大学医学部小児科のホームページ（下記）に加わりましたのでご参考下さい。その他、地方会の運営などに関し、ご意見、ご希望などございましたら、どうぞご連絡頂けますよう、宜しくお願い申し上げます。<http://www.timelyhit.ne.jp/ped-juntendo>  
なお、11月は第30回東日本小児科学会（静岡市）のためお休みです。  
第535回 平成18年1月21日（第3土曜日）  
第536回 平成18年2月25日（第4土曜日）  
第537回 平成18年3月18日（第3土曜日）
- 来年度の教育講演は下記の通り予定しております。  
1月 ウィルス性腸炎について  
(演者：牛島 廣治 東京大学発達医科学)  
2月 子宮内発育不全児は生活習慣病予備軍？（成人病予防の見地から）  
(演者：山城雄一郎 順天堂大学医学部小児科・思春期科)  
3月 我が国の若者に増加するHIV感染  
(演者：佐藤 武幸 千葉大学感染症管理治療部)  
どうぞ、皆様奮ってご参加下さい。
- 平成18年度東京都地方会名誉会員推薦について  
対象：東京都地方会に多大な功績があった会員であって、平成17年12月末までに満70歳を迎える方  
推薦方法：所定の名誉会員推薦用紙にご記入のうえ、平成17年11月末日（必着）までに事務局へ郵送してください。
- 幹事選挙が告示されました。立候補（推薦）する方は、期日までに所定の届出書を事務局へお送りください。
- 12月地方会終了後幹事会が開催されます。関係者の方はご出席くださいますようお願い申し上げます。

**WAKODO**

アズレン含嗽液

薬価基準収載

# アズレワン<sup>®</sup>うがい液 1%

(アズレンスルホン酸ナトリウム製剤)



※効能・効果・用法・用量・使用上の注意等につきましては、添付文書をご覧ください。

資料請求先

発売元 和光堂株式会社

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

製造販売元 株式会社 イセイ

〒990-2495 山形県山形市若葉町13番45号

05.09

## Computer Presentation をご希望の演者の先生方へ

Computer Projectionによる発表を受け付けます。ただしWindowsのみで下記要領でお願いいたします。Powerpoint 2000以上で作成、Font文字はPowerpoint備え付けのみ。CD-RもしくはFloppy Diskにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルスcheckをお願いいたします。

## 〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設いたしました。利用ご希望の方は、利用当日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

## 演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。(原稿は活字もしくはワープロ文字で)